報告

2014 年度徳島大学 FD 推進プログラムの実施報告

赤池雅史　川野卓二　宮田政徳　吉田　博　川瀬和也　上岡麻衣子
徳島大学総合教育センター

要約 : FD 推進プログラムは 2002 年度から開始され，FD の体系化，組織化，日常化等を推進してきた。2014 年度はこの 12 年間の成果を基に，教育の質保証のための新たな教育システム構築と現場のニーズに合わせた支援によって，本学の教育の質向上を目指す。その実施体制は，教育改革推進センターが総合教育センターに再編され，これによって大学の教育改革方針に基く FD を推進する体制がさらに強化された。具体的には，1）教育改革 FD，2）教育力開発 FD，3）総括的な FD に分かれる。各プログラムについて概要を記載し，アンケート結果から成果と今後の課題について考察する。
（キーワード : 新任教員研修，カリキュラムマップ，授業コンサルテーション，大学教育カンファレンス）

An annual report 2014 on campus wide Faculty Development programs at The University of Tokushima

Masashi AKAIKE　Takuji KAWANO　Masanori MIYATA
Hiroshi YOSHIDA　Kazuya KAWASE　Maiko KAMIOKA
Center of University Education, The University of Tokushima

Abstract: FD promotion programs have started from 2002, promoting systematization, organization and routinization of Faculty Development. In 2014, based on the results of 12 years of FD, we have aimed to enhance the quality of higher education of our university, building new educational system for assurance of higher education. The Center for the Enhancement of Teaching & Learning was restructured into the Center of University Education. Thus, based on the guideline for educational innovation of our university, the organization for promoting FD was strengthened. Concretely, we carried out 3 programs; 1) educational innovation FD, 2) educational development FD, 3) comprehensive FD. As to each program, we showed their outlines and considered their results and problems shown from the questionnaire to their attendants.
(Key words: new faculty seminars, curriculum map, individual consultations, education conference)

1. はじめに

FD 推進プログラムは 2002 年度から開始され，FD の体系化，組織化，日常化等を推進してきた。2014 年度はこの 12 年間の成果を基に，教育の質保証のための新たな教育システム構築と現場のニーズに合わせた支援によって，本学の教育の質向上を目指すことを基本方針としている。その実施体制は，教育改革推進センターが総合教育センター教育改革推進部門に再編されたことに伴い FD 担当教員が同部門の所属となり，これによって，大学の教育改革方針に基く FD を推進する体制がさらに強化された。具体的には，1）教育改革 FD，2）教育力開発 FD，3）総括的な FD の 3 つの FD を進めた。

まず，教育改革 FD については，「質保証のための分野別ワークショップ」を実施した。これは，科目間関連の見直しや明確化を行うために，カリキュラムマップの作成を行うことが大学教育委員会で決定されたことを受け，各学部教員と FD 担当教員の共同作業でカリキュラムマップという「プロダクト」を生み出すという手法を取った。このような方法は，カリキュラム開発者や FD 推進者を対象とした FD（ミドルレベルの FD）の実質化という点で非常に大きい意義を持つと考えられる。次に，教育力開発 FD は，新任教員を対象にミクロレベルの FD プログラム（教員の個人の教育力向上を目的とした FD）として，「授業設計ワークショップ」,「授業コンサルテーション」,「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」を連続的かつ体系的に提供した。授業設計ワークショップは，授業設計と教育技術に関する理論と実践を学ぶプログラムである。授業コンサルテーションでは，映像撮影，学生アンケートを含む授業参観を行い，そのデータを基に授業研究会を開催した。ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップは，FD 担当教員がメンターとなり，

教員が教育実績に関する記録を作成して，その教育活動の振り返りを行うものである。授業設計ワークショップとティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップは，SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）に開放され，徳島大学外からの参加者も受け入れている。これらに加えて，文部科学省の大学教育再生加速プログラムの採択を受け，次年度からの授業実施準備として，アクティブ・ラーニングをテーマとした FD を新たに実施しており，次年度はこれをさらに発展させる予定である。

総括的な FD としては,「大学教育カンファレンス in 徳島」を開催し，本学や他の高等教育機関で行われている教育実践の先駆的な取り組みを共有することで, FD 活動の検証と FD ネットワークの充実・発展をはかった。また，本誌「大学教育研究ジャーナル第 12 号」の発行も FD 推進プログラムの一環である。このように本学の FD 推進プログラムは年々進化しているが, ミクロレベルの FD プログラムが新しい教育技術の進歩に対応していく必要がある。ミドルレベル以上の FD が不十分等の課題が指摘されており，教学マネージメントチーム，FD 委員会，大学教育委員会，各学部等と緊密に連携して，さらなる発展に努めていきたい。

以下，今年度の各プログラムの実施内容を具体的に述べる。

2. 質保証のための分野別ワークショップ

a. ねらい

2013 年 7 月に策定された徳島大学機能強化プランでは，共通教育との連携を図り，ナンバリングの導入を推進し, カリキュラムマップを作成（2015 年度）することが言及されている。そこで，徳島大学の新たな教育システム構築のため，科目間関連の見直しや明確化する方法としてカリキュラムマップの作成や授業科目のナンバリング（記号・番号を振り，整理する）を行う「質保証のための分野別ワークショップ」を実施することとした。（表 1）

b. 概要

■開催時期

随時（作業が完了するまで開催した）

■場所

授業研究インテリジェントラボ，及び各部局メンバーが集まりやすい会議室等を利用した。

■対象者

各学科等において上記の作業を行うことができる教務担当者

■内容

分野別ワークショップの開催に先立ち，大阪大学教育学習支援センターの佐藤浩章准教授による講演会とカリキュラム作成ワークショップを，2014 年 3 月 13 日（木）（於 : 常三島キャンパス），および 2014 年 5 月 29 日（木）（於 : 蔵本キャンパス）の午後の時間帯を用いて開催し，その後，分野ごとの作成に移った。基本的は以下に示す手順に従うが，各学科等の現状に合わせて実施した。

表 1. ワークショップ実施状況

学科（コース）等	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
人間文化学科　国際文化コース	7月4日	7月18日	8月21日	9月30日	1月16日	
人間文化学科　心理・健康コース	7月4日	8月21日	9月29日	1月16日		
社会創生学科　公共政策コース	5月26日	7月4日	8月21日	9月8日	10月16日	1月16日
社会創生学科　地域創生コース	6月30日	7月7日	8月21日	11月5日	1月16日	
社会創生学科　環境共生コース	7月2日	8月21日	8月26日	9月8日	1月16日	
総合理数学科　数理科学コース	6月30日	7月14日	8月21日	10月10日	1月16日	
総合理数学科　物質総合コース	6月27日	7月18日	8月21日	9月19日	1月16日	
医学科	6月6日	7月7日	8月25日	9月22日		
医科栄養学科	7月3日	7月30日	10月9日			
保健学科（看護学専攻）	6月12日	7月17日	8月25日	9月17日		
保健学科（放射線技術科学専攻）	6月16日	6月23日	7月11日	9月12日	10月30日	11月25日
保健学科（検査技術科学専攻）	6月6日	6月23日	7月17日	8月25日	9月17日	
歯学科	6月6日	7月11日	9月2日			
口腔保健学科	6月23日					
薬学部	9月3日	9月30日	11月28日			
建設工学科	6月30日	7月18日	9月4日	11月20日		
機械工学科	6月10日	7月2日	9月2日			
化学応用工学科	7月14日	8月22日				
生物工学科	7月2日	7月31日	9月22日			
電気電子工学科	6月10日	7月8日	8月21日	9月29日		
知能情報工学科	7月4日	7月29日	9月16日	10月2日		
光応用工学科	7月2日	7月31日	9月8日			

＜部門別カリキュラムマップ作成の手順＞

1. これまでに作成されたカリキュラム・ポリシー，ディプロマ・ポリシーを見直し, それぞれの学科・コースの教育（学習）目標を 10 個程度で設定する

2. 開講されているすべての科目について，設定したどの教育目標と関連が強いかを「◎」，(2)，または「○」，(1) の重み付けを用いて示す。

3. 他校のカリキュラムマップを精査し，その特徴を分類，整理する。

4. すべての科目を様々な視点・観点を使って分類・整理する。

(例)・必修科目・選択科目・学年（1〜6）・学期（前期・後期）の配当時期・単位数・履修課程の中での当該科目の位置づけ（1 : 導入（基礎），2 : 発展（応用），3 : 定着，4 : まとめ（総括））・授業方法 :

（講義，演習，実験，実習，e ラーニングなど）
5. 上で準備したデータを使ってカリキュラムマップ作成に取り掛かる。
6.（上の 4〜5）の段階のどこかの時点で，共通教育との関わりについて，必要であれば，共通教育の担当者と話し合う時間をとる。
7. 各学部の教授会，および大学教育委員会の承認を得る。
8. 承認を得たカリキュラムマップの電子化を行い，HP 等で公表し，学部教員間で共有できるようにする。

c. 成果と課題

これまで本学で実施してきた FD 活動は，ミクロレベルの授業改善に関する内容が中心であったが，今年度実施した分野別ワークショップは，カリキュラムを扱うミドルレベルの FD 活動に該当する。他大学では，体制づくりや DP の整備と併せて数年間かけてマップづくりをしているところが多いが，本学では短期間で作成したことになる。熱心に WS に参加してくださった学部・学科の教務委員や FD 委員の先生方に感謝したい。

今後，授業科目に関するナンバリングを行ううえで，今回のカリキュラムマップ作成はその基盤づくりの役割を担っている。学部の改組を控えている部局では，学習目標の変更も生じることになるが，これからも定期的にカリキュラムと授業との整合性の検証を行い，カリキュラムマップのアップデートをしておくことが重要である。そのための継続的な体制づくりの整備も必要となる。

3. 授業設計ワークショップ

実質的な FD の取り組みを進めるため，徳島大学の教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修である「授業設計ワークショップ」を実施した。本ワークショップは，授業コンサルテーション，ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップと共に「教育力開発コース」の 1 つであり，これら 3 つのプログラムを連続的に提供し，授業設計，授業の実施・改善，教育活動を振り返り，自身の目標を明確にして授業改善に繋げるといった一連のプロセスを支援するためのものである。本節では，授業設計ワークショップの内容及び成果と課題について報告する。

a. ねらい

本ワークショップは，授業設計の仕方と教育技術について学ぶものである。主な活動内容は，さまざまな授業方法を学び，シラバスと授業計画の作成を行い，模擬授業を実施することである。アクティブ・ラーニングの理論や手法，授業の目的・到達目標の設定，授業実施の留意点，評価方法等に関する講義やワークを通して，参加者が自身の授業について考え，振り返ることにより，実践的な教育力の向上を目指している。本ワークショップの目標は次の 4 つである。

① FD 活動の理念，活動計画を理解する。
② 授業を計画し，実施し，評価する方法を体得する。
③ 授業研究の仕方を理解し，実践する。
④ FD 参加者同士の仲間づくりができる。

b. 概要

■開催期日
2014 年 6 月 28 日（土）〜2014 年 6 月 29 日（日）
■会場
共通教育 6 号館 201（大学開放実践センター2 階）
■対象者
本ワークショップは学外（SPOD）へ開放しているため，学内のみならず，学外の教員も対象としている。

学内の対象者は，学外より講師または准教授採用後 1 年以内の教員，及び学内で助教から講師または准教授昇任後 1 年以内の教員を中心とし，2013 年度以前に実施した「教育力開発基礎プログラム」の欠席者，推薦を受けた者（助教及び教授等）も対象としている。ただし，所属が教育系以外のセンター等，病院の場合，及びプロジェクト採用等の場合は除いた。また，次に該当する場合は参加を免除した。①学外で同様の研修を受けた場合，②担当する授業がない場合，③診療業務を主に担当している場合。

学外の対象者については，徳島県の大学・短大・

高専（T-SPOD）及びその他 SPOD 加盟校の教員とした。

■参加者

今年度の参加者は，教員 31 名（徳島大学 23 名，学外教員 8 名）であり，詳細は次の通りである。

【学内教員】

氏　　名	所　　属	職 名
熊坂元大	総合科学部	准教授
塚本章宏	総合科学部	准教授
新田元規	総合科学部	准教授
小田切康彦	総合科学部	准教授
土屋　敦	総合科学部	准教授
内藤直樹	総合科学部	准教授
中里見博	総合科学部	准教授
坂田大輔	総合科学部	准教授
中塚健太郎	総合科学部	講　師
高橋正幸	医　学　部	准教授
南川貴子	医　学　部	准教授
片岡三佳	医　学　部	准教授
森田明典	医　学　部	准教授
西原貞光	医　学　部	准教授
山口邦久	医　学　部	講　師
大坂京子	医　学　部	講　師
関根一光	歯　学　部	講　師
重永　章	薬　学　部	講　師
永田裕一	工　学　部	准教授
富田卓朗	工　学　部	准教授
佐々木千鶴	工　学　部	講　師
上手洋子	工　学　部	講　師
大野将樹	工　学　部	講　師

【学外教員（SPOD）】

氏　　名	所　　属	職 名
川畑成之	阿南工業高等専門学校	准教授
定本久世	徳島文理大学	講　師
鈴木麻希子	高知県立大学	准教授
井上健朗	高知県立大学	講　師
村上和子	高知工科大学	講　師
川本倫子	高知工科大学	講　師
山本利水	高知工科大学	講　師
千賀芳雄	高知工科大学	講　師

■運営メンバー

運営メンバーは，副学長（教育担当），総合教育センター教育改革推進部門長（FD 委員会委員長），FD 委員会委員を含め，教員 12 名，職員 2 名の計 14 名であり，詳細は次の通りである。

氏　名	所　属	職 名
高石喜久		副学長
赤池雅史	教育改革推進部門	部門長
大橋　守	総合科学部	教　授
山﨑哲男	薬　学　部	教　授
佐藤高則	全学共通教育ｾﾝﾀｰ	准教授
川野卓二	教育改革推進部門	教　授
宮田政徳	教育改革推進部門	准教授
吉田　博	教育改革推進部門	講　師
上岡麻衣子	教育改革推進部門	研究員
金西計英	ICT 活用教育部門	教　授
高橋暁子	ICT 活用教育部門	准教授
坂田　浩	国際ｾﾝﾀｰ	准教授
三好信幸	学務部教育企画室	室　長
金治志津子	学務部教育企画室	係　長

■内容

2 日間にわたり，表 2 のプログラムを実施した。

■全体の流れ

[1 日目]

「(1) オリエンテーション」では，高石副学長より「大学教育，FD・SD への期待」について，赤池 FD 委員会委員長より「研修のねらいと意義」についてお話を頂いた。

「(2) アイスブレイク」では，参加者間の交流と自己紹介について，「印象に残った授業」をテーマとして実施した。自己紹介カードを用い，個人の授業，研究を表すキーワード，性格等の特徴，学生時代に受けた授業などを書き出し，参加者間の共有や情報交換を行った。

「(3) 講義・ワーク　さまざまな授業方法」では，学生の主体的な学習を促進するために，「深い学び（Deep Approach）」に関する理論やアクティブ・ラーニングの理論，さまざまな授業方法を説明した。次に，協働学習に基づく授業方法について参加者が実際にワークを体験した。また，自身の学習経験から，深く学んだ経験を書き出し，参

加者間で共有を行った。

「(4) 講義・ワーク　より良い授業実施のために」では，授業設計と評価に関する講義を行った。具体的には高等教育の状況や「教育実践を記録・顕在化し，それを教師同士が互いに吟味しあい，互いの教授・学習に関する実践的知識を積み重ねあう試み」として，SoTL（Scholarship of Teaching and Learning）[注3)] の考え方が紹介され，授業設計のための理論については，「意義ある学習（Significant Learning）」の 12 のステップが紹介された。その後，学習目標，評価方法，学習活動についてのワークを行い，個人の授業における設計と評価に関わる部分を再考した。続いて，近年急速に注目されるようになった反転授業について，実施の方法やアメリカなどで報告されている学習効果について講義を行った。また，多様な学習者に対応した授業設計の方法についての講義も行われた。

「(5) グループワーク　模擬授業」では，国際センターの坂田浩教員が模擬授業を実施し，模擬授業の中で実践したワークや使用した教材に関する理論的説明を行った。続いて，シラバス作成のポイントや授業計画書の書き方について講義を行い，参加者があらかじめ準備して持参したシラバス，授業計画書の検討・修正を行った。その後，参加者間でシラバスを交換して相互にチェックを行った。最後に，2 日目に実施する模擬授業の説明を行った。

[2 日目]

「(6) 模擬授業実施（グループで実施）」では，参加者やスタッフがグループごとに各部屋に分かれて，参加者全員が模擬授業を実施した。各グループには FD 委員会の教員が司会者として，総合教育センター教育改革推進部門，ICT 活用教育部門の教員がコンサルタントとして入り，支援を行った。模擬授業の手順は，はじめに参加者が模擬授業を実施する授業のシラバスと授業計画書を説明し，その中からある部分の 15 分間を切り取り，その授業を実施した。模擬授業の様子をコンサルタントが撮影し，その後の授業検討会で視聴しながらフィードバックを行った。参加者は学生の立場から模擬授業に参加した後，授業を検討するための要点チェックリストに基づき授業の検討を行った。この他にも良かった点，より良くするための提案について自由記述形式で用紙に記入し，模擬授業実施者へのフィードバックを行った。授業検討会は，参加者がお互いに良い点，改善点について話し合いながら評価し合う活動として行われた。

「(7) プログラムのまとめ」では，教育改革推進部門の川野卓二教員による研修のまとめ，赤池 FD 委員会委員長による講評，今後の全学 FD 推進プログラムの紹介とおわりの言葉によって締めくくられた。

c. 成果と課題

■プログラムの到達目標に関する成果

[到達目標①：FD 活動の理念，活動計画を理解する]

FD 活動の理念，活動計画に対する理解については，「(1) オリエンテーション」での高石副学長による「徳島大学の教育と FD への期待」と，赤池 FD 委員会委員長による「研修のねらいと意義」において，全学的な教育方針，全学 FD プログラムの目的とその意義，教育力開発コース，本ワークショップの目的，意義について説明があった。また「(7) プログラムのまとめ」において，授業コンサルテーション，ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップについての説明もあった。これらの活動により，参加教員は徳島大学の全学 FD 活動について概ね理解することができたと思われる。アンケートに「今後の FD も積極的に参加しようと思う」とあるように，FD に対する理解が促進されたことが伺える。

[到達目標②：授業を計画し，実施し，評価する方法を体得する]

授業計画，評価の方法については，目的・目標の設定，評価の仕方を学び，チェックシートをもとに，自身の授業におけるシラバスの修正を行った。また，Significant Learning（意義ある学習）を参考にしたワークを通して，より具体的に授業設計に関するポイントを押さえることができたのではないだろうか。また，学生の主体的な学習を促進するという視点から，さまざまな授業の方法

に触れ，参加者自身がワークを体験しながら理論を学ぶことによって，自身の授業の目的に沿った適切な授業方法を知ることができたのと推察できる。この点については，アンケートの自由記述からも読み取ることができる。

［到達目標③：授業研究の仕方を理解し，実践する］

模擬授業の計画と準備，模擬授業の実践を通して，評価視点のポイントを示しながら，相互評価を行うことで，その理解が促されたと考える。模擬授業実施では，授業を実践するために必要な評価視点（枠組み）を伝えた上で，相互評価を行う機会を設けたため，体験的に授業研究の方法について理解できる機会であったと考える。また，映像のフィードバックを用いて支援スタッフが関わることで，「授業コンサルテーション」への継続を意識した形で授業検討会を実施した。その方法を体験する機会を設けたことにより，参加者への気づきを促し，印象に残りやすい体験になったと考える。アンケートの「受講したことによって教育への取り組み方が改善されると思うか」という設問では，9 割以上の参加者が肯定的な回答をしていることからも，研修後の授業実践に繋がる成果を得ることができたと推察できる。

［到達目標④：FD 参加者同士の仲間づくりができる］

ワークショップ全体を通して，できる限り相互交流の機会を設け，お互いに研鑽し合う関係性の構築を意識した。具体的には，アイスブレイクで，お互いの授業・研究等について情報共有する機会を設けたこと，各セッションのワークでは，授業に対する考え方を相互に理解するための機会を設定したことが挙げられる。2 日目にはグループ単位でワークショップ全体を振り返りながら気軽に話し合う機会として，昼食会を設定した。模擬授業実施は，お互いの授業から学びつつ，相互に高め合う相互研鑽の関係性構築を促す機会とした。アンケートの「新たに人的なつながりをつくることができたか」という設問においては，約 9 割の参加者が肯定的に評価しており，関係性の構築という視点からは，本ワークショップの成果が確認されたといえる。

■研修全体の成果と今後の課題

アンケートの設問「授業設計ワークショップは自分の業務に活かせる内容だった」，「授業設計ワークショップは全体的に満足できるものであった」，「授業設計ワークショップは期待を上回る内容だった」，「今後も，この授業設計ワークショップを継続していくべきだと思う」では，すべてにおいて 9 割以上の参加者が肯定的な回答をしていることから，本ワークショップは参加者にとって有意義であったことが伺える。また，本ワークショップの主目的である授業設計に関連する項目では，授業の新しい方法や理論を知ったり，自身の授業を見直すきっかけになったり，改善点に気づくことができたことなどがアンケートの自由記述からわかる。

一方，アンケートから今後のワークショップを実施する上で検討すべき課題についても明らかになった。まず，レクチャーが多く，ワークの時間がもっとほしいという意見がいくつか挙げられている。また，1 日目の昼食後に講義が続いたため，辛かったという参加者もいたことがわかる。模擬授業については，参加者間でお互いの授業を共有する良い機会であったが，十分に議論の時間が確保できなかった点も挙げられている。講師陣の内容の調整なども含めてプログラムの組み方を再検討する必要がある。次に，アクティブ・ラーニングに関する理論や手法の説明を行ったが，具体例や実践例が多くほしいという意見が挙げられている。また，評価方法についても詳しい説明が必要であると考える。その他には，事前の周知や，事前課題として提出を依頼したシラバスや授業計画書について，スタッフがあらかじめチェックしておくことなども次年度からの検討課題である。

d. アンケート結果

最後に，プログラム終了直後に実施したアンケート結果について，自由記述の回答を示す。

(1) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。

◆講義法・シラバス作成法

◆アクティブラーニングの導入・学生の視点や学習環境，習慣を考慮した授業設計
◆授業の準備のための時間を作るスキル
◆授業設計全体
◆講座準備，組み立てなどについての方法論
◆学生の主体的参加を促すスキル
◆対面スキル
◆（学生の）心理学
◆授業設計スキル，設計した授業内容/実際の授業の改善スキル（知識，手法など）
◆学生の理解度を向上させるための授業方法
◆講義スキルの向上・PBL のマネジメント
◆より高度な専門知識
◆授業設計，授業開発
◆授業の展開法，英語力
◆学生と積極的，効果的にコミュニケーションをとりながら講義をするという事
◆雑用を断るスキル
◆テンポよく活かすこと。
◆学生の参加を促す手法
◆話し方，スライドの作り方など
◆学生が眠らずに授業を聞くような授業の提示
◆授業におけるアクティブラーニングの導入

（2）参加して良かったと思われる点を，具体的にお書き下さい。

◆他学科の先生とお話し情報交換できて良かった。
◆今後の FD も積極的に参加しようと思う。今回，とても参加になる講義は多かった。
◆頭の中が整理できた
◆色々な授業法を知ることができた。他の先生の授業を見る事ができた。
◆正直，授業設計にさほど興味なく参加してしまった（義務的に）が，想像以上の内容で，授業に対する認識も教育に対する考えも改める所があった。
◆これまでに実施していた授業の内容，実施方法等々見直す機会になりました。内省を続けていかなければいけないと思いました。
◆様々な授業方法を学ぶことができた点。
◆他の先生がどうやって授業に工夫しているかがわかり，参考にしたいと思いました。
◆学生主体の学びに対しての具体的な方法を学ぶことができた。また，他の方法の接近授業を見る事ができて良かった。
◆他分野の先生の講義は良い刺激を与えてくれた。
◆他の先生に評価していただいたこと。
◆充実した研修内容で授業設計の重要性を非常によく実感させられた。
◆異なる視点のアドバイスをしていただけた。
◆初日の理論は勉強になりました。2 日目の模擬授業がよい経験になりました。
◆自分の授業でも改善できる工夫をいくつか得ることができた。また今後授業の内容，手法を改善していくための課題を得ることが出来,「大きな宿題」を頂いたと認識しています。
◆理系の講義にも利用できそうな具体的手法が見えてきた。普段接点のない文系の先生の授業を見る事ができたのが面白かった。
◆学生に学ばせるためのスキルをいくつか習得できた。
◆考え方の違いを客観的に受け入れることの重要性を改めて認識できました。
◆KOLB の学習理論に関する説明，授業開発の方式は役に立てられそうな気がしている。
◆坂田先生の授業はとても参考になった。
◆アクティブラーニングのための各種技術を知った事。他分野の先生方からの見解を得られた事。
◆他分野の授業を見る事ができた。
◆他分野の方の講義を聞けたこと
◆全く知らなかった，反転授業，アクティブラーニングの概念を理解できた。他の職種の先生との会話，授業は新鮮だった。
◆他分野の先生方の授業方法が刺激になった。

（3）研修をよりよいものにするために改善すべき点があれば，具体的にお書き下さい。

◆模擬授業の際のチェックシート記入方法を，単にチェックを入れる方式ではなく,（できている/ふつう/改善の余地あり）といった形式で記入できるようにしてはどうか。
◆失敗を上手く活かせる教材づくりや授業展開など学びたい。
◆事前に提出した，シラバスや授業計画について，

専門家のコメントや修正案を提示してほしかった。
◆1 日目の昼食後が（眠気的に）ツラい時間だったので，そこで手や頭を使う内容だと耐えられた。
◆教育実績を適正に評価する仕組みが構築できてから本プログラムを行うべきだと思う。
◆講師陣の話す内容の重複が多い。
◆少し時間がかかっても良いので模擬授業の時間をもっと伸ばしてほしい。短すぎて落ち着いて話せない。
◆参加者に criteria の吟味
◆アクティブラーニングや，その手法の実際例，具体例を見たり，体験したりしたかった。
◆主催は徳島大学ですが講義のひとつくらいは他大学から招待されると，より刺激されことが増えると思います。
◆シラバスのフォーマットとチェックシートの項目が一致していない点が気になった。
◆各セクションでのレクチャーの割合が多かったのでもう少しワークの割合を増やした方が良いと思った。
◆「主体的な学び」とは何か考える時間がなかった。
◆「深い学び」について「浅く学ぶ」ともいえるかもしれない。
◆スキル習得に特化して，複数実践できる機会になればと思います。
◆レクチャーが多い。もっと具体例が，実践例がないと授業の改善に役に立たないと思う。アクティブラーニングについての必要性は理解できたがどうするのか，評価はどうするのかまったくわからなかった。
◆事前に，模擬授業など（2 日目の用意）もう少し情報を頂けるとありがたいと思いました。
◆座学よりもワークの時間を増やした方が良い。1 日目がもったいない。

(4) その他，お気づきの点があればご記入下さい。
◆FD 委員の皆さん頑張って下さい。お世話になりました！
◆講師の先生のレクチャー内容が興味深く，分かりやすいものであった。
◆蔵本の教員のためのプログラムは蔵本キャンパスで行ってほしい。
◆これだけの運営が大変だったと思います。ありがとうございました。
◆スタッフの皆さんにはこの二日間お世話になりました。ありがとうございました。
◆アイスブレイクの効果が大きい。特に徳島大外からの教員にとって。
◆教育がもっと効果される仕組みが必要（性善説に立たないこと）

4. 授業コンサルテーション

a. 授業コンサルテーションの目的

徳島大学では，FD 推進プログラムの一環として，授業コンサルテーションを 2005 年度より，「授業コンサルテーション・授業研究会」という名称で実施している。授業コンサルテーションでは，個々の教員の実情に沿った具体的で日常的な FD をめざしており，その目的は，授業の把握，授業の改善，参加者間での授業技術の共有化である。対象は今年度より「授業設計ワークショップ」受講者を主な対象としているが，希望者も受け付けている。

b. 授業コンサルテーションの流れ

授業コンサルテーションは，今年度よりやや簡略化して，次の流れで進めている。

授業への参観・映像撮影・学生アンケートの実施
↓
学生アンケート整理・映像編集
↓
授業研究会（発表・映像視聴・議論）

まず，センター教員と撮影担当者が，各教員の授業を参観し，簡単なメモ（授業内容のまとまり，時間経過，特筆するべき発言や出来事）をとりつつ，授業を映像に収める。授業終了時には，学生へのアンケート（その日の授業で何を学んだかということ，授業に関する先生へのメッセージについて）を実施する。さらに時間があれば，教員に授業に関する簡単なインタビューを行う。

表 2　2014 年度　授業設計ワークショップ日程

第 1 日（2014 年 6 月 28 日・土曜日）

時　刻	内　　容	講師・担当者
9:00－ 9:30	・受付　（共通教育 6 号館 201）	－
9:30－10:00	(1)オリエンテーション ・大学教育，FD・SD への期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	川野卓二（進行） 副学長（教育担当） 高石喜久 FD 委員会委員長 赤池雅史
10:00－10:30	(2)アイスブレイク「忘れられない授業」 ・参加者自己紹介・交流	上岡麻衣子
10:30－11:40	(3)講義・ワーク「さまざまな授業方法」 ・学生の主体的な学習を促進する授業方法	吉田　博
11:40－12:40	休憩　　各自で昼食	
12:40－15:10	(4)講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 ・授業設計と評価 ・反転授業について ・多様な学習者に対応した授業設計	川野卓二 金西計英 坂田　浩
15:10－15:20	休憩	
15:20－17:45	(5)グループワーク「模擬授業」 ・模擬授業の実施 ・シラバス・授業計画書の書き方 ・シラバス，授業計画書の検討・修正 ・2 日目の模擬授業の進め方について	坂田　浩 宮田政徳 スタッフ全員 吉田　博

第 2 日（2014 年 6 月 29 日・日曜日）

時　刻	内　　容	講師・担当者
9:00－9:30	・集合，模擬授業準備 （教材印刷が必要な場合は 9:00 集合）	スタッフ
9:30－12:10	(6)模擬授業実施（グループで実施） ・FD 委員紹介，流れの確認 ・シラバス紹介，模擬授業実施，検討会 1 人 25 分×5 人（または 4 人）（休憩適宜） →チェックリストをもとによかった点，改善点等を検討する。	各班司会：FD 委員 ワーク支援： スタッフ全員 FD 委員
12:10－13:10	休憩　昼食(交流会)　＊全員参加	
13:10－14:15	(7)プログラムのまとめ ・模擬授業のまとめ ・講評 ・授業ｺﾝｻﾙﾃｰｼｮﾝ，ﾃｨｰﾁﾝｸﾞ・ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵについて ・修了証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	川野卓二 副学長（教育担当） 高石喜久 FD 委員会委員長 赤池雅史

その後，授業映像をもとに，センター教員が授業の主要部分の映像を編集する。編集映像は授業の展開が分かるように，各まとまりから数分間の映像を抽出し，合計で 15 分強になるようまとめた。さらに，授業参観より一週間以内に，編集映像，学生アンケートの結果をもとにした「授業研究会」を開催する。そこでは，様々な部局からの参加者を交えて，授業改善の知恵を出し合い，また授業からいろいろなことを学び合うことを目指した。

c. 授業研究会

授業研究会は以下のような手順で進めた。所要時間は全部で 1 時間ほどである。これも昨年度よりやや短縮した。

簡単な説明（授業全体のねらい／この日のねらいなど：対象者の先生より 5 分）
↓
授業映像視聴（15 分）
↓
授業参観者報告・学生アンケートから読めること（総合教育センター教員より 5〜10 分）
↓
授業者解説（当日の様子／授業でうまくいっている点・お困りの点など各論：対象者の教員より 5〜10 分）
↓
自由討論（あるいは課題討論 10〜15 分）

2014 年度は 21 名の教員に対して授業コンサルテーションを行った。

また，2009 年度より学部委員会との共催で開催し，対象教員と同じ部局に所属する学部 FD 委員が随時授業研究会へ参加する形式となった。学部 FD 委員会との共催により，学部との連携を行いつつ，専門的な立場から教員が参加する形となり，専門的な視点からも議論する体制を継続している。

授業研究会では総合教育センター教員のほか，対象教員が所属する部局等からの参加がみられた。なお，授業研究会は，授業研究インテリジェントラボでの開催を主としていたが，2011 年度より，対象となる教員の所属部局での開催を推進し，同領域の教員が参加しやすい環境づくりを目指している。2014 年度の授業研究会は次の通り実施された。

●第 1 回 2014 年 5 月 14 日（水）16:30〜17：30
・開催場所：医学部第 1 カンファレンス室
・授業担当者：池田康将　准教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部）
・授業題目：『薬理学』
・共催：医学部 FD 委員会
・内容：授業研究会当日は，5 月 7 日に授業参観した池田康将先生の授業風景をビデオで観て，参観後学生にアンケートを書いてもらった内容が紹介された。授業は「心不全」とは何かについて，種類，原因，治療法について PTT 資料を中心として行われた。アンケートから学生には，急性心不全と慢性心不全での薬の種類が違うことが十分理解されていたことが読み取れた。ただ学生に配布された PPT 資料が小さすぎて字が読みづらいという学生の要望に対しては，学生が自分で授業前にダウンロードできるように，大学のネット上の LMS 等に授業資料としてアップロードしておけば鮮明で，また配布の手間が省けるのでは，という意見が出された。

●第 2 回 2014 年 6 月 9 日（月）14:30〜15：30
・開催場所：総合科学部 1 号館 308 教室
・授業担当者：松嶋一成　准教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）
・授業題目：『経営学 1 』
・共催：総合科学部 FD 委員会
・内容：当日は，松嶋先生の授業映像を一部視聴し，松嶋先生の解説や総合教育センター教育改革推進部門教員等を交え，自由討論を行った。先生の授業は，経営戦略論について主要な概念や理論を習得し，理解することを目的にしており，理論の説明の際には，身近な具体例を多く交えながら説明されている。授業は，学生とのやり取りを行いながら進められ，授業の初めには前回の復習を行い，途中で簡単な問題を用いて学生の理解度を確認されている。　自由討論では，学生の理解を促進する方法について意見交換が行われた。パワーポイントのスライド資

料に学生が書き込むページを設けることや，授業の予習に関する確認テストを実施すること，授業の最後に全体のまとめを行うことなどのアイデアが参加者間で共有された。学生アンケートからは，例をたくさん紹介してくれるので，理解しやすいといった意見が多く挙げられていた。

●第 3 回 2014 年 7 月 1 日（火）16:30～17：30
・開催場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3 階）
・授業担当者：川上竜巳　講師（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）
・授業題目：『バイオテクノロジー入門』
・共催：総合科学部 FD 委員会
・内容：当日は 6 月 26 日の授業参観で撮影した授業風景の映像を一部視聴し，川上先生の解説や総合教育センター教育改革推進部門のスタッフや他部局の教員を交え，自由討論を行った。川上先生の授業はユニークで，授業の前半は前回の授業後半で行ったテストに関する講義で，後半は次回の授業内容のテストを行う。というわけで，学生は必ず自宅学習でテスト勉強をして来ないとテストが出来ず，いわば一種の反転授業のようなものである。最初戸惑っている学生もいたらしいですが，今では慣れて来ているようである。テストも必ず返却されているようだが，評点を付けていなかったので，今後はフィードバックのため何らかの評点を付けるということになった。またアンケートから PPT のスライドの文字が小さくて見えにくいと言う意見が多かったので，今後は改善することになった。

●第 4 回 2014 年 7 月 8 日（火）14:15～15：15
・開催場所：保健学 C 棟 1 階看護総合実習室 C
・授業担当者：岡久玲子　講師（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部）
・授業題目：『産業保健・看護論』
・共催：医学部 FD 委員会
・内容：当日は，岡久先生の授業映像を一部視聴し，岡久先生の解説や総合教育センター教育改革推進部門教員等を交え，自由討論を行った。先生の授業は，産業保健活動の基礎的な知識や技能について，講義や演習を行いながら習得することを目的にしている。授業では，具体的な事例を紹介したり，先生の体験談なども交えたりしながら説明されている。学生アンケートからも，具体例があって分かりやすいという意見が多く挙げられていた。自由討論では，学生とのやり取りを効果的に入れることで，学生の集中力を持続させるための工夫と，授業外学習を増加させるための工夫について，参加者間でアイデアの共有を行った。先生の授業では，実際の事例が多く用いられていることから，事例を用いて，その問題点や対応を考える時間を設けるなどのアイデアが出された。また，資料に書き込むスペースを設けるなど，学生が作業する要素を入れることなども共有された。授業外学習については，成績評価と予習課題を関連づけることなどが挙げられた。

●第 5 回 2014 年 7 月 15 日（火）16:30～17：30
・開催場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3 階）
・授業担当者：湯浅恵造　准教授（大学院ソシオテクノサイエンス研究部）
・授業題目：『生化学』
・共催：工学部 FD 委員会
・内容：当日は，7 月 10 日（木）の授業参観で撮影した湯浅浅先生の授業風景を一部視聴し，湯浅先生の解説や学生アンケートについて，総合教育センター教育改革推進部門のスタッフや薬学部山崎先生を交え，自由討論を行った。湯浅先生の授業は寝ている学生がいなくて，授業の理解度も 8 以上という素晴らしい授業である。大きい字で印刷された PPT 配布資料が穴埋め式となって，学生アンケートからも「説明が丁寧で大事なところは 2 度繰り返して言ってくれるし，ノートを取らなくてよいので授業に集中できる」という意見が多かった。ただ，PPT 配布資料の構成や流れがつかみにくいので，各スライドに小見出し，大見出し，番号をつけておけばもう少し分かり易くなるのではという意見が出た。後，授業の難易度をどの学生に合わせた

らよいのかについて議論があり，平均的学力の学生のレベルに合わせるのがよいのではという結論であった。

●第 6 回 2014 年 9 月 30 日（火）18:00〜19：00
・開催場所：保健学 B 棟 3 階 B32 セミナー室
・授業担当者：南川貴子　准教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部）
・授業題目：『看護導入実習』
・共催：医学部 FD 委員会
・内容：9 月 24 日（水）14:00〜15：00 に授業参観した南川先生の授業の研究会を行った。この看護導入実習という授業は保健学科看護学専攻 3 年生が病院実習を行う前に行われる，実習に関する心構えや注意点を学ぶ授業である。この授業の最大の特徴は先駆的な反転授業だったことである。学生は予め 9 月 1 日に WEB 上で病院看護に関するビデオを観て，その後それに関するレポートを提出して授業に臨んでいた。ほぼ全員が事前学習をしていたので，当日は事例に関する幾つもの課題を学生に提示して，各グループで討論し，代表に発表させていた。授業後のアンケートでも学生から「他の学生の意見を聞くことができてよかった。」,「自分の考えと先生の考えを比較することができ，自分に足りないものが分かった。」などの深い学びが出来ていることがうかがえた。研究会での議論は，代表の学生の意見を聞きっぱなしでなく，先生が反復していったん受け止め，コメントを添えて他の学生に伝えるようにした方がよいことが指摘された。

●第 7 回 2014 年 10 月 20 日（月）14:30〜15：30
・開催場所：共通講義棟 401 講義室
・授業担当者：佐々木千鶴　講師（大学院ソシオテクノサイエンス研究部）
・授業題目：『分析化学』
・共催：工学部 FD 委員会
・内容：当日は，佐々木先生の授業映像を一部視聴し，佐々木先生の解説や総合教育センター教育改革推進部門教員等を交え，自由討論を行った。　先生の授業は，生物工学科の学生が必要とする分析化学の基礎を習得し，化学反応における計算ができるようになることを目的にされている。演習問題を授業の前後で取り入れ，教科書に合わせた授業設計をすることで，理論的な内容の理解と問題を解く力を養うことができるように工夫されている。自由討論では，学生と教員との双方向型で実施するための工夫や学生に予習をさせるための工夫などが話し合われ，同僚教員の経験や実践を参観者間で共有することができた。

●第 8 回 2014 年 10 月 23 日（木）13:00〜14：00
・開催場所：保健学 B 棟 2 階医用情報科学講座セミナー室
・授業担当者：西原貞光　准教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部）
・授業題目：『画像基礎論 1 』
・共催：医学部 FD 委員会
・内容：当日は，西原先生の授業映像を一部視聴し，西原先生の解説や総合教育センター教育改革推進部門教員，医学部保健学科教員を交え，自由討論を行った。先生の授業は，診療放射線技師として必要である医療用画像の診断に関する基本的な考え方を身につけることを目的にされている。授業で使用する教材を事前に配布することで学生の予習を促し，重要な事柄は学生が教材に書き込むことができるように工夫されている。内容に興味を持ってもらえるように，教科書の内容だけでなく関連する情報を交えながら進められている。自由討論では，言葉の定義の仕方，説明する順番，例の使い方など，授業の方法だけでなく専門的な内容について同僚の教員と議論を行い，参加者間でより具体的な授業設計の共有を行うことができた。

●第 9 回 2014 年 11 月 12 日（水）13:00〜14:00
・開催場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3 階）
・授業担当者：小田切康彦　准教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）
・授業題目：『政策学入門』
・共催：総合科学部 FD 委員会

・内容：当日は，前週に行われた小田切先生の授業映像を一部視聴し，小田切先生の解説や総合教育センター教育改革推進部門教員（5 名），ソシオアーツアンドサイエンス研究部の教員（1 名）を交え，自由討論を行った。先生の授業の目的は，様々な政策問題を解決する方針や手段を体系化した「公共政策学」を学ぶことである。そのために授業参観した第 5 回目の授業は,「政策とは何か(4)：多様性，複雑性」がテーマであった。授業では前半先生の講義があり，後半はマイクロディベイトという手法を用いて学生が 3 人一組となり, 9 グループで討論を行った。先生から 3 つのお題をもらい，グループの 3 人がそれぞれ，肯定派と否定派と審判となって自分の意見を主張した。授業後のアンケートでは大部分が「マイクロディベイトの手法が分かった，面白かった，ためになった」と答えていることから，このアクティブラーニングが有効であったことが分かる。授業研究会で議論された課題は，このマイクロディベイトの題目をいかに授業の内容と関連させ，学生の討論の中身を深めるかという事であった。なかなか難しいことであるが，これからもチャレンジして続けて欲しいと思われる。

●第 10 回 2014 年 11 月 13 日（木）21:10〜21 : 30
・開催場所：共通講義棟 K-306
・授業担当者：大野将樹　講師（大学院ソシオテクノサイエンス研究部）
・授業題目：『集積回路工学』
・共催：工学部 FD 委員会
・内容：当日は，大野先生の授業映像を一部視聴し，大野先生の解説や総合教育センター教育改革推進部門教員等を交え，自由討論を行った。先生の授業は，集積回路に関する基本的な知識を習得することを目的にされている。授業の冒頭で前回の復習を行い，数式を多用したときなどには復習のための小テストを実施している。学生の動機づけのために，解説の中には具体例や関連する話題を取り入れ，図やイラストを用いてゆっくり丁寧に説明されている。教材は i-Collabo を活用して，学生が事前に予習できるように工夫されている。自由討論では，多くの学生が予習や復習を行うようにするための工夫について話し合われ，授業内における学生とのやり取りの仕方など，具体的な方法についても意見交換が行われた。

●第 11 回 2014 年 11 月 18 日（火）11:55〜12 : 50
・開催場所：総合科学部 309 講義室
・授業担当者：中塚健太郎　講師（大学院ソシオアーツアンドサイエンス研究部）
・授業題目：『スポーツ心理学』
・共催：総合科学部 FD 委員会
・内容：授業参観を行った直後に，同じ教室で授業研究会を始めたが, 途中から隣の教室に会場を移して実施した。まず, 授業の進め方を振り返り, 授業の終盤に実施した学生へのアンケートを参加者間で回覧し，確認した。授業では，最初に運動好きと嫌いとで席を分けて後半部のグループワークに備えていた。また，聞き取りやすい声で授業が行われ, 穴あき部分があるスライド資料が配られ，埋める時間を十分とっていた。質疑応答形式で進められる部分も多く, 説明は具体例が多いので学生からは理解しやすいとのコメントが多かった。終了前の時間帯で，同じ立場にあるクラスメートと意見を述べ合い, 相互理解を図っていた。研究会の中で議論された事柄の一つに，教室の形状がある。今回の教室は縦に長く，後ろの方に座る学生にとっては, 前方で示される事柄が見えにくいことから, 中間部にモニターを設置するなどの環境整備が望まれる。また, 最近は, HDMI 端子を使う機器が多くなっており, その整備も急がれる。

●第 12 回 2014 年 11 月 18 日（火）19:40〜20 : 40
・開催場所：共通講義棟 K-202 講義室
・授業担当者：永田裕一　准教授（大学院ソシオテクノサイエンス研究部）
・授業題目：『最適化理論』
・共催：工学部 FD 委員会
・内容：当日は，永田先生の授業映像を一部視聴し，永田先生の解説や総合教育センター教育改革推進部門教員を交え，自由討論を行った。先

生の授業は，最適化の基本原理について理解し，関連する問題が解けることを目的にされている。説明の中には具体例を用いることや，演習問題を多く取り入れることで，学生の理解を促進するための工夫がされている。また，i-Collabo を活用して教材を事前に提示することで，学生が予習できるようにされている。自由討論では，授業の構成や学生の授業外学習を増加させるための工夫などについて話し合われた。演習問題を学生に説明させることやレポート課題の出し方など具体的な方法についての共有が行われた。

●第 13 回 2014 年 11 月 25 日（火）16:00～17 : 00
・開催場所：歯学部第 2 講義室
・授業担当者：関根一光　講師（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部）
・授業題目：『歯科理工学 A』
・共催：歯学部 FD 委員会
・内容：当日は，前週に授業参観した関根先生の授業映像を一部視聴し，関根先生の解説や総合教育センター教育改革推進部門教員等を交え，自由討論を行った。先生の授業は，歯科医療に用いる，金属材料，レジン，セラミックスなど歯科材料の性質や利用法を理解することを目的にされている。当日の授業では，パワーポイントに対応するレジメを配布され，パワーポイントにも動きのあるアニメーションや動画を取り入れたりして，学生の理解を助けていた。また歯科セメントの実物を回覧して，五感で学生の理解を促していた。また授業最後にはミニッツペーパーを配布し，授業の理解度を確かめる問いやわかりにくかった点などを書かせて，学生との双方向性のやりとりを工夫されていた。自由討論では，学生が授業外学習の予習や復習を行うようにするための工夫について話し合われ，特に何らかの形で予習をさせるとその後の授業の理解度が高まるのでは，という意見交換が行われた。

●第 14 回 2014 年 11 月 28 日（金）10:00～11 : 00
・開催場所：授業研究インテリジェントラボ
・授業担当者：熊坂元大　准教授（大学院ソシオアーツアンドサイエンス研究部）
・授業題目：『環境倫理学』
・共催：総合科学部 FD 委員会
・内容： 当日は，熊坂先生の授業映像を一部視聴し，熊坂先生の解説を聞いた後，自由討論を行った。熊坂先生の授業は，最初に前回の授業に対する学生からのコメントから，学生が誤解している点や疑問点についての補足説明の時間が十分にとられていた。また，より深く学ぶための方法も紹介しており，学生からも歓迎されている。授業のスライドを i-Collabo にアップするのが授業後になるため，授業中はノートをとることに忙しく，大量のスライドを使って授業が進められるので次のスライドへ進む時間が早すぎると感じている学生が多いようである。道徳的ジレンマに陥る具体的な問題を切り口として，実際に学生からの応答を得て授業が進められている。また，宗教や心理学のような隣接分野にも言及し，深い学びに至らせるための工夫が見られた。自由討論では，大教室で相互作用のある授業を展開する具体的な方法について共有が行われた。

●第 15 回 2014 年 12 月 2 日（火）15:00～16 : 00
・開催場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3 階）
・授業担当者：上手洋子　講師（大学院ソシオテクノサイエンス研究部）
・授業題目：『英語コミュニケーション』
・共催：工学部 FD 委員会
・内容：当日は，上手先生の授業映像を一部視聴し，上手先生の解説を聞いた後，総合教育センター教育改革推進部門教員と工学部電気電子工学科教員を交え，自由討論を行った。上手先生の授業は，電気電子工学科の学生が英語でコミュニケーションができるようになることを目的とされている。そのために，当日は学生を 9 グループに分け，グループ別のディベイトを実施した。まず，ディベイトするために「賛成」と「反対」を表す英語表現を先生と TA が練習して手本を示し，その後 3 つのテーマを各グループに一つずつ割当て，グループ内で英語による

ディスカッションが行われた。授業の最後では各グループ代表による議論内容の発表があり，それに対する先生からの内容に関する適切なコメントがあった。自由討論では，ディベイトのテーマを一般的なものより，より電気電子の専門に近いものであればもっと学生のモティベーションを上げられるのではないか，という意見が出された。またＴＡや英語を喋る留学生をもっと活用したらディベイトが活発になるのでは，というコメントも聞かれた。

●第 16 回 2014 年 12 月 4 日（木）11:55～13：45
・開催場所：共通教育 6 号館 303 教室
・授業担当者：新田元規　准教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）
・授業題目：『明清時代の儒教と社会』
・共催：総合科学部 FD 委員会
・内容：授業参観を行った直後に，同じ教室で授業研究会を行った。まず，授業の進め方を振り返り，授業の終盤に実施した学生へのアンケートを，受講学生が少なかったため司会担当者が読み上げ，確認した。授業は，中国の思想史がメインとなっているもので，最初に詳しい配布資料が配られ進められた。内容は，共通教育科目というよりも，専門科目ではないかと感じさせるものであった。このスタイルの授業に対する学生アンケートのコメントは肯定的であり，他の授業とは異なる雰囲気を楽しんでいるようであった。自由討論の中では，より双方的な授業にする方法や，この授業に対してより多くの学生が関心を持つように授業題目を魅力的にする方策が話し合われた。

●第 17 回 2014 年 12 月 8 日（月）10:00～11：00
・開催場所：医学部保健学 B 棟 3 階セミナー室 32 号室
・授業担当者：大坂京子　講師（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部）
・授業題目：『看護技術 IV』
・共催：医学部 FD 委員会
・内容：当日は，大坂先生の授業映像を一部視聴し，大坂先生の解説を聞いた後，総合教育センター教育改革推進部門教員と授業参観された薬学部教員を交え，自由討論を行った。　大坂先生の「看護技術」の授業の目的は，保健学科看護学専攻の 2 年生を対象として，基礎看護学実習に向けて，臨床実習に必要な知識，技術，態度を身につけることである。授業は事前配布した統合失調症の事例を基にアセスメントに必要な薬や検査値，用語の解説があった後，各グループ別に行った統合失調症の事例の看護診断のワークの内容がグループ毎に発表された。それに対して大坂先生が適切なコメントをされた。自由討論では，グループに発表させる場合は，発表の内容をある程度事前に把握して良い例や問題がある例を絞って提示した方が学習には適切でないか，という意見が出された。また授業が大講義室なので，時々教室の中を動き回ると後ろに座っている学生達に集中力を持続させることができるのでは，というコメントも聞かれた。学生へのアンケートでは，大坂先生の授業は非常に丁寧で分かり易いと好評であった。

●第 18 回 2014 年 12 月 11 日（木）10:00～11：00
・開催場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3 階）
・授業担当者：坂田大輔　准教授（大学院ソシオアーツアンドサイエンス研究部）
・授業題目：『社会科教育法』
・共催：総合科学部 FD 委員会
・内容：当日は，総合教育センター教育改革推進部門教員を交え，坂田先生の授業映像を一部視聴し，坂田先生の解説や，自由討論を行った。授業は，まず前時の学生からの小レポートの内容を紹介し，本時のテーマに結びつく事柄を明らかにさせることから始まった。配布資料は，授業の進展に合わせて，関連する部分だけがその都度配布された。１コマの授業の流れがよく計画されており，板書はいろいろな箇所に行われたが，授業の途中で消す箇所がなく，その終了時に一つのまとまりのある内容になるように進められた。話される内容だけでなく，授業を行うすべての側面が教師を目指す学生にとって模範となっているとのコメントが多かった。学生とのやりとりは，一問一答形式だけでなく，

追加質問が続き，より深く考え学ぶ機会を提供する場面がよく見られた。

●第 19 回 2014 年 12 月 16 日（火）9:45～10：45
・開催場所：医学部保健学 C 棟 1 階講義室 C-13
・授業担当者：森田明典　准教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部）
・授業題目：『保健物理学』
・共催：医学部 FD 委員会
・内容：当日は，直前に授業参観した森田先生の授業映像を一部視聴し，森田先生の解説や総合教育センター教育改革推進部門教員を交え，自由討論を行った。先生の授業は，診療放射線技師にとって必要となる，放射線の人体への影響について学ぶことを目的にされている。授業では，実際の診療現場での具体例や国家試験問題に関連する話題などを盛り込みながら学生の動機づけを行っている。授業で使用するスライドは図や写真を多用されており，学生アンケートからも分かりやすいという意見が複数挙げられていた。また，学習内容ごとに簡単な問題を解き，学習の振り返りと定着を行っている。自由討論では，学生の授業外学習を促す方法や授業中に問題をしっかり考えさせるための方法について意見交換が行われた。具体的には学生同士のやり取りや学生の理解度を聞く方法などが共有された。

●第 20 回 2014 年 12 月 25 日（木）10:00～11：00
・開催場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3 階）
・授業担当者：塚本章宏　准教授（大学院ソシオアーツアンドサイエンス研究部）
・授業題目：『地理空間情報と人間社会』
・共催：総合科学部 FD 委員会
・内容：当日は 12 月 22 日（月）に授業参観した塚本先生の授業映像を見ながら，塚本先生の解説や総合教育センターの教員と総合科学部教員を交えながら，自由討論を行った。　塚本先生の授業は，「地理空間情報」という，位置や場所に関連付けられた様々な情報についての基本的な知識を理解し，その利用促進によって人間社会にどのような変化がもたらされているのかについて考えることを目的としている。第 10 回目の授業は「地理空間情報と歴史」についてであった。授業冒頭では復習として，先週のコメントカードに書かれた意見や質問が紹介された。その後，歴史 GIS という研究分野を紹介するため，江戸時代の京都にあった商工業者や知識人の住所を地図化して，その時間と空間の変化をみながら，都市の構造が考察された。授業半ばでは，「絵図」に位置情報を付加したワークシートが配られ，絵図の空間的構図を把握する作業が行われた。　自由討論では，PPT に沿ったレジメが配布されたり，作業用のワークシートが用意されていて，非常に丁寧な授業であることが指摘された。学生アンケートからも丁度眠くなる頃，ワークシートによる作業時間があるので，眠け覚ましによいことが述べられていた。ただしゃべり方がやや単調になりがちなので，もう少しメリハリをつけたらもっと聞き取り易くなるという助言があった。

●第 21 回 2015 年 1 月 28 日（水）17:00～18：00
・開催場所：授業研究インテリジェントラボ（大学開放実践センター3 階）
・授業担当者：内藤直樹　准教授（大学院ソシオアーツアンドサイエンス研究部）
・授業題目：『フィールドワーク入門 II』
・共催：総合科学部 FD 委員会
・内容：当日は 1 月 21 日（水）に授業参観した内藤先生の授業映像を見ながら，内藤先生の解説や総合教育センターの教員を交えながら，自由討論を行った。内藤先生の授業は，「フィールドワーク入門」という授業で，前期の「入門Ｉ」ではフィールドワークに欠かせない心構えやテクニック，後期の「入門ＩＩ」では様々な分野における事例が紹介されている。授業の目的は，フィールドワークとは何かを理解することである。授業参観時のテーマは「難民支援のフィールドワーク」についてであった。前回の授業の復習後，世界の貧困層の現状が紹介され，その貧困層に対する BOP (Bottom of the Pyramid)ビ

ジネスが説明された。そしてアフリカの難民に対する BOP ビジネスの典型的な例として「携帯電話サービス」が取り上げられた。ケニアでどのように携帯電話が利用されているかが実物や映像を使って紹介された。そして最後にケニアの難民の実情と問題点が講義された。授業終了時には毎回「リアクションペーパー」といって，授業中出てきた話題についての課題を提示し，それに対して自分の考えを書かせて提出させる工夫がされている。自由討論では，アンケートから配付資料の PPT の文字が小さかったり，モノクロだったりして見にくいという指摘に対して，カラー印刷が難しかったら i-collabo にアップして学生自身で印刷するようにしたらどうかという助言があった。またリアクションペーパーに書かせる課題を授業最後でなく最初に提示して，集中して授業を受けさせたり，課題について学生同士で話し合わせたりする時間をとったら，もっとアクティブな授業になるのではないかという指摘があった。

5. 大学教育カンファレンス in 徳島

a. 大学教育カンファレンス in 徳島の目的

徳島大学の FD 推進プログラムの一環として実施している大学教育カンファレンスも今回で 10 回目となった。これまでの実践成果を基盤にして，本年度実施した FD 活動の成果を検証し，FD ネットワークを充実・発展させる機会となるよう，本学や四国の高等教育機関で行われている教育実践の先駆的な取組みを共有し，大学教育の質的向上に向けた努力の成果を確認するために実施した。

b. 概要と成果

・会期：2014 年 12 月 26 日（金）9：00〜18：05
・会場：徳島大学共通教育 4 号館等
・成果：今回の実施は，昨年度と同様に，後期授業期間中の 12 月に開催した。開催場所は，大学開放実践センターから，共通教育 4 号館，5 号館に変更した。口頭発表 16 件，ポスター発表 13 件，ワークショップが 3 件あった。その内，ポスター発表 2 件は学外からの発表であった。また，学生を発表筆頭者とする口頭発表が 6 件，ポスター発表が 1 件あった。午前中は，口頭発表の後，ワークショップ 3 件がパラレルで開催され，総合教育センターの金西計英教授と高橋暁子准教授による「「反転授業」をやってみた －2014 年度反転授業実施の中間報告－」と，大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部の坂田大輔准教授による「学部専門科目を通した教員養成 －『教職キャリアノート』に見る学生の学びから－」と，四国学院大学の仙石桂子助教と本学の国際センターの Gehrtz 三隅友子教授による「教育にインプロをとりいれてみよう －自らの教育活動に活かすには? －」が行われた。

今回の特別講演として，九州大学 基幹教育院教育企画開発部の田中岳准教授による講演が「初年次におけるアクティブ・ラーニングの展開－九州大学基幹教育カリキュラムを事例に－」と題して行われた。また，昨年度に引き続きラウンドテーブル形式による発表 1 件があった。テーマは，「学生，または教員間で高い評価を受けた授業の実践」，話題提供者として，学外から 2 名（鳴門教育大学の余郷裕次教授，阿南工業高等専門学校の錦織浩文教授）と，本学の国際センターの坂田浩准教授の 3 名により行われ，それぞれの発表のあと全体での質疑応答があった。今回の全体の参加者は 132 名，学外からの参加者 17 名を含む，149 名であった。すべての発表終了後に情報交換会を開催した。

6. ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

a. ねらい

実質的な FD の取り組みを進めるため，「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」を開催した。本ワークショップは平成 23 年度に初めて開催して以来，今年度は 4 回目の開催である。本ワークショップは，教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修の一つとして実施し，到達目標は次の通りであった。

①個人の教育活動を振り返り，教育理念と教育目的を整理する。
②個人の教育活動を振り返り，教育戦略・方法を

表3　平成 26 年度徳島大学ＦＤ推進プログラム

「大学教育カンファレンス in 徳島」プログラム

会期：2014 年 12 月 26 日（金）　会場：徳島大学共通教育 4 号館等

8:30 ～ 9：00	受　付　＜共通教育 4 号館 2 階ホール＞		
9:00 ～ 9：15	学長挨拶　香川 征　＜共通教育 4 号館 202 講義室＞　*司会：赤池雅史*		
9：15～ 10：00	***口頭発表Ａ*** *座長：佐田政隆* **＜4 号館 202 講義室＞** Ａ① 9：15～9：30 ■リメディアル授業における学力と継続した学習意欲の関係 大学院ｿｼｵ･ｱｰﾂ･ｱﾝﾄﾞ･ｻｲｴﾝｽ研究部 齊藤隆仁	***口頭発表Ｂ*** *座長：下村直行* **＜4 号館 203 講義室＞** Ｂ① 9：15～9：30 ■学士課程教育の体系化を可視化するためのカリキュラムマップ作成に関わるＦＤと現状の課題 総合教育センター 吉田　博　他	
	Ａ② 9：30～9：45 ■徳島大学における「大学入門講座･読書レポート 2014」の試み：読書からアカデミックライティングへ 全学共通教育センター 古屋 玲　他	Ｂ② 9：30～9：45 ■学習スタイルの向上・改善を目指した学生と図書館職員の協働による実践の成果と課題 工学部電気電子工学科 片山裕之　他	
	Ａ③ 9：45～10：00 ■徳島大学における「物理学とその関連分野の教育に関する情報交換会」（通称、物理 FD）の試み 全学共通教育センター 古屋 玲　他	Ｂ③ 9：45～10：00 ■大学生による小中学生向けロボット教室の企画・運営～アンケート結果から見た大学生と小中学生の評価～ 工学部機械工学科 足立一真　他	
10：00 ～10:10	休 憩		
10：10 ～12:10	***ワークショップＡ*** **＜4 号館 202 講義室＞** ◆「反転授業」をやってみた－2014 年度反転授業実施の中間報告－ 総合教育センター 金西計英　他	***ワークショップＢ*** **＜4 号館 203 講義室＞** ◆学部専門科目を通した教員養成 －『教職キャリアノート』に見る学生の学びから－ 大学院ｿｼｵ･ｱｰﾂ･ｱﾝﾄﾞ･ｻｲｴﾝｽ研究部 坂田大輔	***ワークショップＣ*** **＜5 号館 2 階　会議室＞** ◆教育にインプロをとりいれてみよう －自らの教育活動に活かすには？－ 国際センター Gehrtz 三隅友子　他

12：10 ～13:00	昼 食 休 憩
13：00 ～14:30	***特別講演*** *司会：川野卓二*　**＜4 号館 202 講義室＞** 演題：初年次におけるアクティブ・ラーニングの展開 —九州大学基幹教育カリキュラムを事例に— 講師：田中　岳先生（九州大学基幹教育院教育企画開発部　准教授）
14：30 ～14:40	休　憩
14：40 ～16:40	***ポスター発表*** **＜5 号館 2 階　学生自習スペース＞** 14：40～15：40 ●高大連携事業「高校生の大学研究室への体験入学型学習プログラム」実施報告（第 6 報）Ｐ① 大学院ｿｼｵ･ｱｰﾂ･ｱﾝﾄﾞ･ｻｲｴﾝｽ研究部 渡部 稔 他 ●中国人留学生の防災意識　Ｐ② 大学院ｿｼｵ･ｱｰﾂ･ｱﾝﾄﾞ･ｻｲｴﾝｽ研究部 山本真由美　他 ●ふくしま、とくしま、ともに輝こうプロジェクトの活動報告Ｐ③ 大学院ｿｼｵ･ｱｰﾂ･ｱﾝﾄﾞ･ｻｲｴﾝｽ研究部　中山信太郎　他 ●Using Authentic Texts in 'English Reading Understanding' Classes at Japanese UniversitiesＰ④ 大学院ｿｼｵ･ｱｰﾂ･ｱﾝﾄﾞ･ｻｲｴﾝｽ研究部 Dierk Clemens Guenther ●「チャレンジ創造コンテスト」の活動における問題点と対策　Ｐ⑤ 工学部機械工学科　三好　遥　他 ●中心静脈カテーテル(CVC)留置術個別講習会の検討Ｐ⑥ 大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部 岩田 貴 他 ●医療系学科１年生合同ワークショップの効果的実施 －８年間の振り返りより－　Ｐ⑦ 大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部　長宗雅美　他 ●地域育成型歯学教育プログラムの評価（第 2 報） －地域福祉体験学習における教育効果の変化－　Ｐ⑧ 大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部　薮内さつき　他 ●Web 単語帳の自宅学習における有効性　Ｐ⑨ 全学共通教育センター（非常勤講師）ギュンター 知枝 ●キャリア教育における「短期インターンシップ」の実践と課題　Ｐ⑩ 総合教育センター　山野明美　他 ●小ステップ課題演習方式によるプログラミング演習の改善　Ｐ⑪ 阿南工業高等専門学校　吉田　晋　他 ●Teaching process writing to Japanese university ESL students.　Ｐ⑫ 立命館大学　Christopher Pond ●第１回と第２回の教員の教育に関する意識調査の比較　Ｐ⑬ 総合教育センター　上岡麻衣子 他	***ラウンドテーブル*** *座長：赤池雅史* **＜4 号館 202 講義室＞** 15：10～16：40 ★学生、または教員間で高い評価を受けた授業の実践 ☆継続的自律英語学習を目指した英語授業の実践 徳島大学 坂田　浩 ☆絵本の読み聞かせを教員養成に 鳴門教育大学 余郷裕次 ☆阿南高専国語教育実践例 ～POP を用いた本の紹介発表～ 阿南工業高等専門学校 錦織浩文
16：40 ～16:50	休 憩

16：50 ～18:05	***口頭発表Ｃ*** *座長：羽地達次* **<4 号館 202 講義室>** Ｃ① 16：50～17：05 ■ゼロ点補正方式の授業アンケートを用いたコミュニケーション教育の授業改善 大学院ｿｼｵ･ｱｰﾂ･ｱﾝﾄﾞ･ｻｲｴﾝｽ研究部 久田旭彦	***口頭発表Ｄ*** *座長：上田哲史* **<4 号館 203 講義室>** Ｄ① 16：50～17：05 ■ティーチング・アシスタントの体験による教育者としての実践力と資質能力向上の分析 大学院保健科学教育部 水本絢子　他
	Ｃ② 17：05～17：20 ■ティーチングアシスタントを主体とする高大院連携化学実験の実践と評価 大学院ｿｼｵﾃｸﾉｻｲｴﾝｽ研究部 南川慶二　他	Ｄ② 17：05～17：20 ■学生が教職実践演習を通して明確化する教師像と養護教諭観 大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部 奥田紀久子　他
	Ｃ③ 17：20～17：35 ■手作り自動滴定装置の改良・改善プロジェクト 大学院ｿｼｵﾃｸﾉｻｲｴﾝｽ研究部 外輪健一郎　他	Ｄ③　17：20～17：35 ■プロジェクト活動で得られたこと 工学部知能情報工学科 竹田智洋
	Ｃ④ 17：35～17：50 ■グローバル化社会に向けた教養教育の課題 大学院ｿｼｵ･ｱｰﾂ･ｱﾝﾄﾞ･ｻｲｴﾝｽ研究部 大橋　眞　他	Ｄ④ 17：35～17:50 ■徳島大学就職支援団体「ACTIVE」の活動について 大学院先端技術科学教育部 山口喜堂 他
	Ｃ⑤ 17：50～18：05 ■授業のアクティブラーニング化は学生の自学自習を促進するか？ －反転授業の場合－ 大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部 三笠洋明 他	Ｄ⑤ 17：50～18：05 ■徳島大学就職支援団体「ACTIVE」によるアンケート調査の報告 ～徳島大学における就職活動の実態調査～ 大学院先端技術科学教育部 山口喜堂 他
18：30 ～20:30	情報交換会　**<生協食堂>**	

整理する。

③個人の教育活動を振り返り，成果と具体的な課題を整理する。

④参加者同士の関係性をつくる。

本ワークショップは，SPOD の FD プログラムであるため，徳島大学教員だけでなく，SPOD 加盟校の教員も参加した。ティーチング・ポートフォリオは，教員個人が教育活動を振り返り，自身の教育理念，教育目的，戦略，方法，成果，課題などを中心にまとめていくものである。参加教員（メンティー）にメンターが寄り添い，話し合いを重ねながら自身のティーチング・ポートフォリオを 2 日間かけて作成する。参加者同士で対話を行いながら，自身の教育活動について 2 日間集中して振り返る作業を行っていくものである。

b. 概要

■開催時期

2015 年 3 月 5 日（木）～3 月 6 日（金）

■会場

共通教育 6 号館 201（大学開放実践センター2 階）

■参加者

氏　　名	所　　属	職　　名
南川慶二	工　学　部	准教授
上岡麻衣子	総合教育センター	特任研究員

■運営メンバー

氏　　名	所　　属	職　　名
赤池雅史	教育改革推進部門	教　授
川野卓二*	教育改革推進部門	教　授
宮田政徳*	教育改革推進部門	准教授
吉田　博*	教育改革推進部門	講　師
川瀬和也*	教育改革推進部門	助　教

＊はメンター担当教員

■内容

2 日間にわたって表4のプログラムを実施した。

c. 成果と課題

プログラム終了直後，参加者 2 名に事後アンケートを実施した。各項目に対し，「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の 4 段階で評価を行った。

特に参加者全員が「そう思う」と回答した評価の高い項目は,「研修は全体的に満足できるものだった」,「ティーチング・ポートフォリオは自身の教育改善につながった」であり,「ティーチング・ポートフォリオの作成を同僚にもすすめたい」という項目でも全員が肯定的な回答をした。このことから，参加者にとってポートフォリオ作成による教育活動の振り返りが有意義なものであったことが伺える。

また運営面においては「メンターからの助言は役に立った」,「事務局は手際よく研修を運営した」,「ワークショップの目的が明確であった」,「ワークショップはわかりやすい順序ですすめられた」の設問では，参加者全員が「そう思う」と回答しており，参加者がポートフォリオを作成するために有効的，かつ集中できるワークショップとなったことが伺える。

成果と課題に関連する項目で，上述した項目以外については，次の 4 つの項目について自由記述として回答を得た。参加者から得られた回答すべてを次にあげる。

(1) ティーチング・ポートフォリオを作成したご感想をお聞かせ下さい。

◆今の仕事をしているのは，過去から現在のつながりがあることが理解できた。自分が本当のところで何がしたいのかがわかった。

◆自分自身のこれまでのあらゆる活動を「教育」という視点からふり返ることで，今まで気づいていなかった多くのことが一貫した行動原理のようなものに支えられていることを認識できました。

(2) ワークショップに参加して良かったと思われる点を，具体的にお書き下さい。

◆自分が何を目指しているのかがわかった。

◆教育活動を評価する方法として有効であることに納得することができました。他の先生方にも勧めたいと思います。

(3) ワークショップの場所，開催時期，日程等についてのご意見をお聞かせください。

◆2 日間で書くのは大変だった。

◆2 月末に事前準備が必要ということを認識せず

表 4　2014 年度ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

第 1 日（2015 年 3 月 5 日・木曜日）

時　刻	内　　容	講師・担当者
8:00-8:30	受付（共通教育6 号館 201 教室）＊8:25 までに集合	
8:30-9:00	オリエンテーション	
9:00-9:30	・はじめに	吉田博（進行）
	・自己紹介（スタッフ紹介）	副学長　高石喜久
	・ティーチング・ポートフォリオとは	川瀬和也
	・第 1 稿をまとめるにあたってミニワーク	吉田博
9:30-10:00	第 1 回個人ミーティング	メンター全員
	各自メンタリングルームへ移動	
10:00-12:00	TP 作成作業	
12:00-13:00	意見交換・昼食	宮田政徳
	・初稿へ向けての共通アドバイス	
13:00-15:00	TP 作成作業	
15:00-15:30	第 2 回個人ミーティング	メンター全員
	各自メンタリングルームへ移動	
15:30-17:15	TP 作成作業（＊22:00　初稿提出締切）	

第 2 日（2015 年 3 月 6 日・金曜日）

時　刻	内　　容	講師・担当者
8:30-9:30	TP 作成作業	
9:30-10:00	第 3 回個人ミーティング	メンター全員
	各自メンタリングルームへ移動	
10:00-12:00	TP 作成作業	
12:00-13:00	意見交換・昼食	宮田政徳
	・初稿に共通するコメントと情報共有	
	・第 2 稿をまとめるにあたって	
13:00-14:00	TP 作成作業	
14:00-14:30	第 4 回個人ミーティング	メンター全員
	各自メンタリングルームへ移動	
14:30-16:00	TP 作成作業	
16:00-16:30	TP 作成作業・プレゼンテーション準備	
16:30-17:15	TP 披露・修了式	吉田博（進行）
	・メンティーによるプレゼンテーション	FD 委員長　赤池雅史
	・ワークショップを振り返って	宮田政徳
	・修了証授与　・記念写真　・アンケート	
18:00-20:00	情報交換会（任意参加）	

に申し込んだ後で気づきました。卒論・修論発表会，入試，成績入力などが重なり，十分な準備ができなかったので，あと一週間遅い日程が良いと思いました。

(4) ワークショップをよりよいものとするために改善すべき点があれば，具体的にお書き下さい。

◆参加者の人数が増えれば互いに情報共有ができたり，様々な観点から自分の活動を考えるヒントにすることができたりして良いと思いました。

今回のワークショップは 4 回目であり，今回は 2 日間の日程で開催した。ワークショップの開催日を 1 日少なくすることで，参加者のワークショップに対する負担感を軽減させたが，実際の作業が減るわけではないため，スケジュールがタイトになった分だけ作業が大変そうであった。しかし，参加者数が少なかったことで，メンターが余裕を持って個人ミーティングを適宜実施することができたため，教育理念や目標の設定について，深い省察ができている様子であった。2 日間の実施のために，ワークショップ終了後も翌日に原稿の提出があり，メンターからのフィードバックや修正が行われた。今年度から，授業設計ワークショップ，授業コンサルテーションと共に，教育力開発コースとして体系化されたプログラムとして実施されるようになったが，参加者が少ないのが現状である。今後は，実施時期や日程を再検討し，上述した課題の克服や，参加者への広報を十分に行って行くことで参加者の増加も意識して改善していくことが必要である。